

Excel・Word実習

(1章・Excelデータ分析編)

2007.11

学科名	学科	氏名	
-----	----	----	--

【経営指標】

企業の収益力や財政状態、更に価値創造を分析するツールとして、**経営指標**がある。

経営指標とは、最新業績に基づいて、安全性、収益性、生産性、成長性に関する同業者比較と時系列分析を行い、企業の経営動向と課題を割り出すための指針である。

(1) 安全性分析

安全性とは、資金の収支のバランスがとれているか、資金繰りが安定しているか、と言う企業の財務健全性のこと。

安全性を見ることで、企業の財務が健全で倒産することがないかを知ることができる。

安全性は、企業体力と言い換えることもできる。

安全性を計る指標には、次の様なものがある。

① 自己資本比率

自己資本比率とは、安全性分析の一指標で、総資産に占める自己資本の割合を示す。

自己資本比率を計算する際の自己資本には、新株予約権及び少数株主持分は含まないので注意を要する。

《計算式》：自己資本比率 (%) = 自己資本 ÷ 総資産 × 100

《指標の見方》

一般的にこの比率が高いほど、資本構成が安定しており経営の安全度が高いことを示す。

自己資本比率が低いと言うことは、設備投資など新たな資金需要に対して有利子負債を頼る必要性が高く、その分競争力が劣ってしまう可能性がある。

また、現状収益性が上がっていないような場合には、有利子負債負担に耐え切れなくなる可能性もはらんでいる。

② 固定比率

固定比率とは、安全性分析の一指標で、固定資産のうちどの程度が自己資本で賄われているかを示す。

《計算式》：固定比率 (%) = 固定資産 ÷ 自己資本 × 100

《指標の見方》

固定資産は事業の用に供し、事業から得られる収益で回収がなされていくものであることから、借入ではなく自己資本で賄われているのが理想である。

この指標が 100%以上となった場合、固定資産の調達について他人資本にも依存していることを示す。

③ 当座比率

当座比率とは、安全性分析の一指標で、企業の短期支払能力を判断する指標。

《計算式》：当座比率 (%) = (当座資産 ÷ 流動負債) × 100

《指標の見方》

当座比率が高いほど短期的な支払担保能力が大きいことを示す。

当座資産とは、現金及び預金、受取手形、売掛金、有価証券などを指す。

流動比率では現金化までに時間を要する在庫が含まれていることから、これを含まない当座資産を利用することで、流動比率より厳しく支払能力を見たい場合に利用される。

「1 : 1 の原則」ともいわれ、当座比率が 100%以上あることが安全性の目安といわれる。

④ 流動比率

流動比率とは、安全性分析の一指標で、流動負債(1年以内に返済すべき負債)を流動資産(短期間で換金可能な資産)がどの程度カバーしているかを示す。

《計算式》：流動比率 (%) = 流動資産 ÷ 流動負債

《指標の見方》

この比率が高いほど、短期的な資金繰りに余裕があることを示す。

流動比率が 100%以下であれば、短期的な支払のために、資本や長期負債が使用されていることになる。

「2 : 1 の原則」とも呼ばれ、流動比率が 200%以上あることが安心の目安といわれている。

⑤ 固定長期適合率

固定長期適合率とは、安全性分析の一指標であり、固定資産のうちどの程度が自己資本と長期の借入金で賄われているかを示す。

固定長期適合率は、長期固定適合率とも呼ばれる。

《計算式》：固定長期適合率 (%) = 固定資産 ÷ (自己資本 + 固定負債) × 100

《指標の見方》

固定資産は事業の用に供し事業から得られる収益で回収がなされていくものであることから、長期性の資金ですべて賄われている必要がある。

この指標が 100%以上となった場合、固定資産の維持調達について流動負債にも依存していることを示すことから、相当に資金繰りが厳しい状態と考えられる。

※ 特に、営業職を目指す学生は、取引先企業の安全性を客観的に計る為に必要な知識である。

また、次の図の様に、**固定比率**をグラフ化しなさい。



【保存先】

C:\Office 操作\固定比率.xlsx

【問】

次の固定比率表を見て、“A社”の固定比率の状況を考察しなさい。

	全産業 (%)
優良企業	68.6
黒字企業	147.8
A社	

前ページの**固定比率**を記入

ヒント

この指標が、100%以上となった場合、固定資産の調達について他人資本に依存していることを示す。

【考察】

Excel・Word 実習

(1章・Excel データ分析編)

2007.11

学科名		学科	氏名	
-----	--	----	----	--

【経営指標】－(1) 安全性分析

練習問題④

次の“A社”の貸借対照表から、**当座比率**を求めなさい。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	A社 貸借対照表									
2	(単位:百万円)									
3			科目	金額	構成比		科目	金額	構成比	
4			現金預金	312	12.1		支払手形	340	13.2	
5			受取手形	380	14.8		買掛金	269	10.5	
6			売掛金	589	22.9		短期借入金	450	17.5	
7			製品	252	9.8		割引手形	292	11.3	
8			原材料	110	4.3		未払法人税等	35	1.4	
9			仕掛品	63	2.4		その他流動負債	81	3.1	
10			貸付金	20	0.8		流動負債合計	1,467	57.0	
11			その他流動資産	58	2.3		長期借入金	464	18.0	
12			流動資産合計	1,784	69.4		その他固定負債	114	4.4	
13			建物構築物	170	6.6		固定負債合計	578	22.4	
14			機械装置	295	11.5		負債合計	2,045	79.4	
15			土地	43	1.7		資本金	80	3.1	
16			その他固定資産	231	9.0		利益準備金	20	0.8	
17			(小計)	739	28.8		別途積立金	360	14.0	
18			無形固定資産	21	0.8		未処分利益剰余金	68	2.6	
19			投資等	29	1.1		資本合計	528	20.5	
20			固定資産合計	789	30.7					
21			資産合計	2,573	100.0		資本・負債合計	2,573	100.0	
22										
23										
24										
25			当座比率(%) =	当座資産	× 100 =					
26				流動負債						
27										
28										

なお、“合計”及び“構成比”は、計算式で求めるものとする。

また、次の図の様に、**当座比率**をグラフ化しなさい。

	A	B	C	D	E	F	G	H
28								
29				資産の部	負債及び資本の部			
30			資本合計		528			
31			固定負債合計		578			
32			流動負債合計		1,467			
33			固定資産合計	789				
34			当座資産	1,281				
35			その他の流動資産	503				
36								
37								
38								
39								
40								
41								
42								
43								
44								
45								
46								
47								
48								
49								
50								
51								
52								
53								
54								

当座比率

【保存先】

C:\Office 操作\当座比率.xlsx

【問】

次の当座比率表を見て、“A社”の当座比率の状況を考察しなさい。

	全産業 (%)
優良企業	213.3
黒字企業	107.4
A社	

前ページの**当座比率**を記入

ヒント
この指標が高いほど、短期的な支払担保能力が大きいことを示す。

【考察】

練習問題⑤

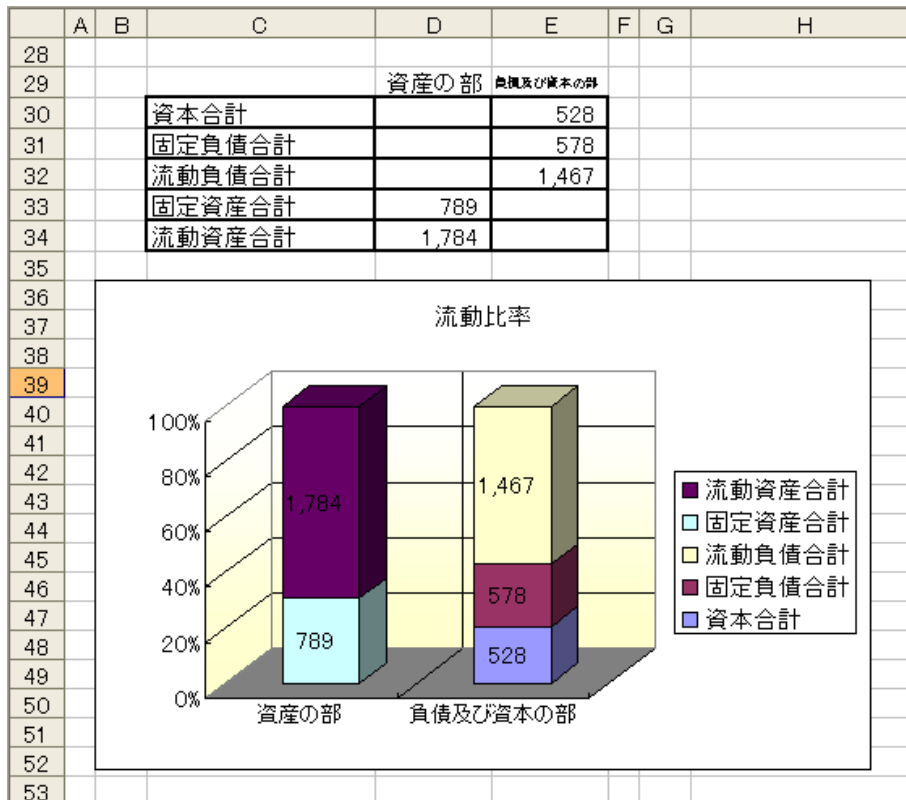
次の“A社”の貸借対照表から、**流動比率**を求めなさい。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	A社 貸借対照表									
2	(単位:百万円)									
3			科目	金額	構成比			科目	金額	構成比
4			現金預金	312	12.1			支払手形	340	13.2
5			受取手形	380	14.8			買掛金	269	10.5
6			売掛金	589	22.9			短期借入金	450	17.5
7			製品	252	9.8			割引手形	292	11.3
8			原材料	110	4.3			未払法人税等	35	1.4
9			仕掛品	63	2.4			その他流動負債	81	3.1
10			貸付金	20	0.8			流動負債合計	1,467	57.0
11			その他流動資産	58	2.3			長期借入金	464	18.0
12			流動資産合計	1,784	69.4			その他固定負債	114	4.4
13			建物構築物	170	6.6			固定負債合計	578	22.4
14			機械装置	295	11.5			負債合計	2,045	79.4
15			土地	43	1.7			資本金	80	3.1
16			その他固定資産	231	9.0			利益準備金	20	0.8
17			(小計)	739	28.8			別途積立金	360	14.0
18			無形固定資産	21	0.8			未処分利益剰余金	68	2.6
19			投資等	29	1.1			資本合計	528	20.5
20			固定資産合計	789	30.7					
21			資産合計	2,573	100.0			資本・負債合計	2,573	100.0
22										
23										
24										
25										
26										
27										
28										

流動比率(%) = $\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100 =$

なお、“合計”及び“構成比”は、計算式で求めるものとする。

また、次の図の様に、**流動比率**をグラフ化しなさい。



【保存先】

C:\Office 操作\流動比率.xlsx

【問】

次の流動比率表を見て、“A社”の流動比率の状況を考察しなさい。

	全産業(%)
優良企業	257.0
黒字企業	145.2
A社	

前ページの流動比率を記入

ヒント

この指標が高いほど、短期的な資金繰りに余裕があることを示す

【考察】

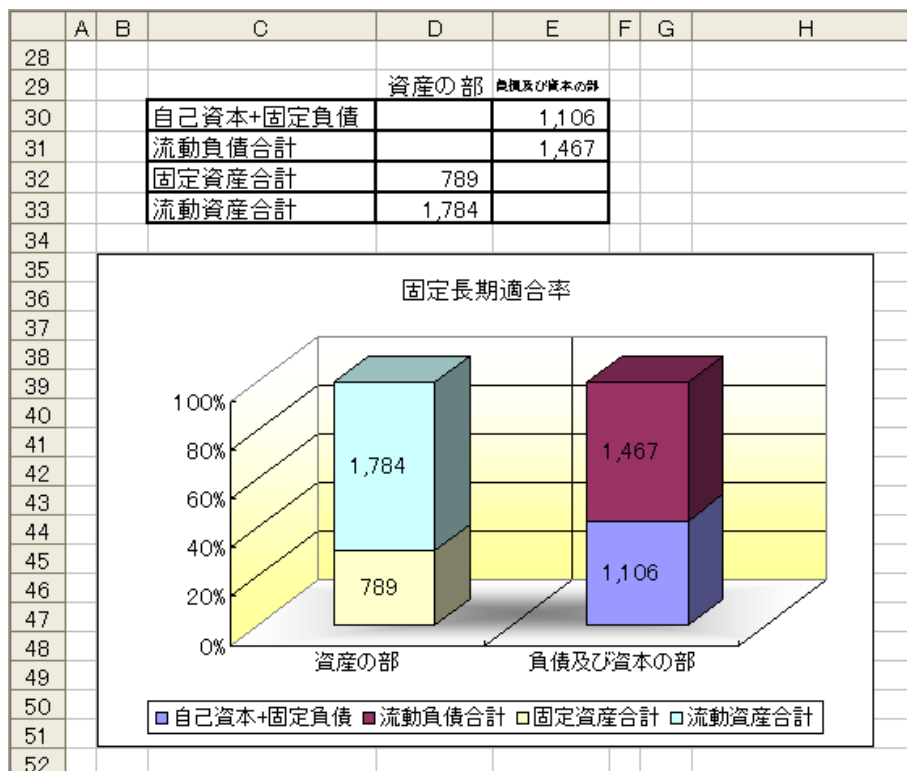
練習問題⑥

次の“A社”の貸借対照表から、**固定長期適合比率**を求めなさい。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	A社 貸借対照表									
2	(単位:百万円)									
3	科目		金額	構成比	科目		金額	構成比		
4		現金預金	312	12.1		支払手形	340	13.2		
5		受取手形	380	14.8		買掛金	269	10.5		
6		売掛金	589	22.9		短期借入金	450	17.5		
7		製品	252	9.8		割引手形	292	11.3		
8		原材料	110	4.3		未払法人税等	35	1.4		
9		仕掛品	63	2.4		その他流動負債	81	3.1		
10		貸付金	20	0.8		流動負債合計	1,467	57.0		
11		その他流動資産	58	2.3		長期借入金	464	18.0		
12		流動資産合計	1,784	69.4		その他固定負債	114	4.4		
13		建物構築物	170	6.6		固定負債合計	578	22.4		
14		機械装置	295	11.5		負債合計	2,045	79.4		
15		土地	43	1.7		資本金	80	3.1		
16		その他固定資産	231	9.0		利益準備金	20	0.8		
17		(小計)	739	28.8		別途積立金	360	14.0		
18		無形固定資産	21	0.8		未処分利益剰余金	68	2.6		
19		投資等	29	1.1		資本合計	528	20.5		
20		固定資産合計	789	30.7						
21		資産合計	2,573	100.0		資本・負債合計	2,573	100.0		
22										
23										
24	固定資産									
25	固定長期適合率(%) = $\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資本}+\text{固定負債}} \times 100 =$ 									
26										
27										
28										

なお、“合計”及び“構成比”は、計算式で求めるものとする。

また、次の図の様に、固定長期適合比率をグラフ化しなさい。



【保存先】

C:\Office 操作¥固定長期適合比率.xlsx

【問】

次の固定長期適合比率表を見て、“A社”の固定長期適合比率の状況を考察しなさい。

	全産業 (%)
優良企業	52.2
黒字企業	74.2
A社	

前ページの固定長期適合比率を記入

ヒント

この指標が低いほど、流動負債に依存せず、資金繰りに余裕があることを示す

【考察】

Excel・Word 実習

(1章・Excel データ分析編)

2007.12

学科名	学科	氏名
-----	----	----

【経営指標】

(2) 生産性分析

生産性とは、生産要素(労働、資本ストック及び原材料・原燃料量等)のインプット(投入)に対して、活動の結果としてのアウトプット(産出物)の割合を言う。

なお、生産要素には、労働力、総資本(総資産)、自己資本、資本金などがあり、そのいずれをとるかによって、**労働生産性**と**資本生産性**などの種類が識別される。

また、産出物には、売上高、生産高、付加価値などの金額で評価する事も出来れば、生産数量、販売数量、出来高等の物量で測定する事も出来る。前者は**価値的生産性**を表し、後者は**物的生産性**を表す。

生産性を計る指標の一つに、次の様なものがある。

① 加工高労働生産性 … 労働生産性(物的生産性)

加工高労働生産性は、生産性分析の一指標で、人材の活用度合いを表しており、一般的に従業員一人当たりの加工高(付加価値額)で表す。

従業員規模に左右されることなく、その企業の生産性を測ることができる。

単に、**労働生産性**とも呼ばれる。

《計算式》：**加工高労働生産性(円) = 加工高(付加価値額) ÷ 従業員数**

《指標の見方》

この指標は、高いほど良い。上場企業の労働生産性は、約1,500万円程度である。

練習問題⑦

次の“A社”の損益計算書と製造原価報告書から、**加工高労働生産性**を求めなさい。

なお、**損益計算書**と**製造原価報告書**は、以降の練習問題でも使用する為、正確に作成すること。**貸借対照表**がある時点での企業の財政状態を明らかにするものに対して、**損益計算書**は企業が一定期間にどれだけ儲けたか、或いは損をしたか(営業成績)を示している。

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
1		A社 損益計算書									
2											(単位:百万円)
3			第18期		第19期			第20期			
4			金額	構成比	金額	構成比	伸び率	金額	構成比	伸び率	
5		売上高	3,079	102.0	3,252	101.9	105.6%	3,467	101.5	106.6%	
6		売上値引返品	61	2.0	60	1.9	98.4%	52	1.5	86.7%	
7		総売上高	3,018	100.0	3,192	100.0	105.8%	3,415	100.0	107.0%	
8		期首製品棚卸高	205		224		109.3%	295		131.7%	
9		当期製品製造原価	2,493		2,657		106.6%	2,707		101.9%	
10		期末製品棚卸高	224		295		131.7%	252		85.4%	
11		売上原価計	2,474	82.0	2,586	81.0	104.5%	2,750	80.5	106.3%	
12		売上総利益	544	18.0	606	19.0	111.4%	665	19.5	109.7%	
13		販売費管理費	436	14.4	480	15.0	110.1%	498	14.6	103.8%	
14		営業利益	108	3.6	126	3.9	116.7%	167	4.9	132.5%	
15		受取利息	12	0.4	14	0.4	116.7%	15	0.4	107.1%	
16		雑収入	10	0.3	25	0.8	250.0%	19	0.6	76.0%	
17		営業外利益計	22	0.7	39	1.2	177.3%	34	1.0	87.2%	
18		支払利息割引料	48	1.6	55	1.7	114.6%	65	1.9	118.2%	
19		雑損失	12	0.4	10	0.3	83.3%	14	0.4	140.0%	
20		営業外費用計	60	2.0	65	2.0	108.3%	79	2.3	121.5%	
21		経常利益	70	2.3	100	3.1	142.9%	122	3.6	122.0%	
22		特別利益	0	0.0	10	0.3		9	0.3	90.0%	
23		特別損失	12	0.4	5	0.2	41.7%	10	0.3	200.0%	
24		税引前当期利益	58	1.9	105	3.3	181.0%	121	3.5	115.2%	
25		法人税等	28	0.9	51	1.6	182.1%	57	1.7	111.8%	
26		当期利益	30	1.0	54	1.7	180.0%	64	1.9	118.5%	
27											
28		平均社員数	135		140			150			
29											

売上原価を構成する当期製品製造原価を説明する報告書を製造原価報告書と言う。

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
1		A社 製造原価報告書									
2											(単位:百万円)
3			第18期		第19期			第20期			
4			金額	構成比	金額	構成比	伸び率	金額	構成比	伸び率	
5		期首材料棚卸高	101	4.1	122	4.6	120.8%	135	5.0	110.7%	
6		当期材料仕入高	1,551	62.2	1,597	60.1	103.0%	1,596	59.0	99.9%	
7		期末材料棚卸高	122	4.9	135	5.1	110.7%	110	4.1	81.5%	
8		材料費計	1,530	61.4	1,584	59.6	103.5%	1,621	59.9	102.3%	
9		賃金手当	364	14.6	397	14.9	109.1%	430	15.9	108.3%	
10		福利厚生費	35	1.4	38	1.4	108.6%	40	1.5	105.3%	
11		その他人件費	21	0.8	23	0.9	109.5%	25	0.9	108.7%	
12		労務費計	420	16.8	458	17.2	109.0%	495	18.3	108.1%	
13		外注加工費	383	15.4	374	14.1	97.7%	378	14.0	101.1%	
14		水道光熱費	10	0.4	12	0.5	120.0%	14	0.5	116.7%	
15		工場消耗品費	39	1.6	47	1.8	120.5%	47	1.7	100.0%	
16		修繕費	18	0.7	21	0.8	116.7%	25	0.9	119.0%	
17		賃借料	22	0.9	35	1.3	159.1%	30	1.1	85.7%	
18		減価償却費	30	1.2	45	1.7	150.0%	52	1.9	115.6%	
19		研究費	17	0.7	13	0.5	76.5%	20	0.7	153.8%	
20		その他製造経費	35	1.4	39	1.5	111.4%	41	1.5	105.1%	
21		製造経費計	554	22.2	586	22.1	105.8%	607	22.4	103.6%	
22		当期総製造費用	2,504	100.4	2,628	98.9	105.0%	2,723	100.6	103.6%	
23		期首仕掛品棚卸高	65	2.6	76	2.9	116.9%	47	1.7	61.8%	
24		期末仕掛品棚卸高	76	3.0	47	1.8	61.8%	63	2.3	134.0%	
25		当期製品製造原価	2,493	100.0	2,657	100.0	106.6%	2,707	100.0	101.9%	
26											

製造原価報告書では、材料費、労務費、経費の3種類に分けて当期の製造原価の発生額(当期総製造費用)を説明する。

加工高(付加価値額)は、基本的には損益計算書と貸借対照表から計算するが、様々な分析手法がありそれぞれの特色もある。

最も一般的と思われる中小企業庁方式と日本銀行方式を、次に示す

※ 付加価値の計算

(a) 中小企業庁方式

(イ) 製造業及び建設業

$$\text{加工高(付加価値額)} = \text{生産売上高} - (\text{材料費} + \text{買入部品費} + \text{外注加工賃})$$

(イ) 流通販売業

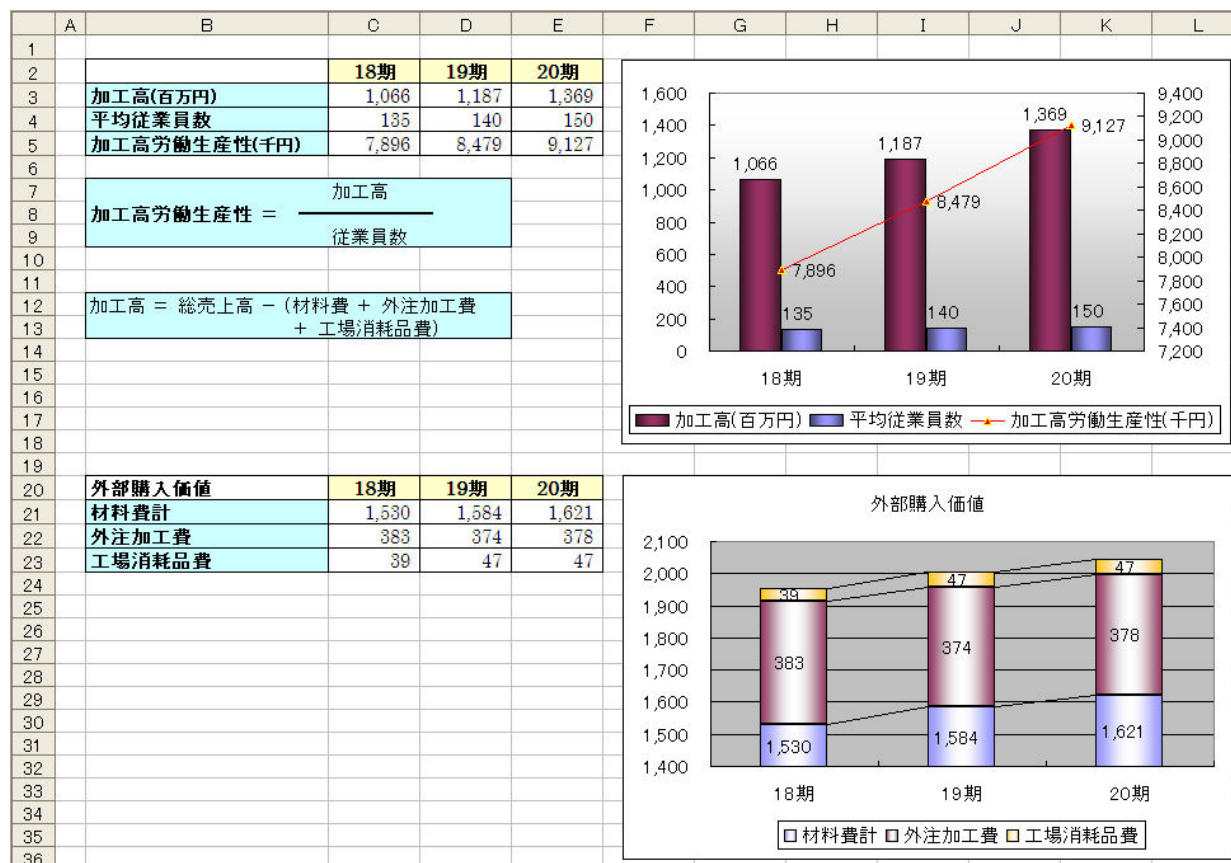
$$\text{付加価値額(粗利益)} = \text{純売上高} - \text{仕入商品原価}$$

(b) 日本銀行方式

$$\text{付加価値} = \text{純益} + \text{人件費} + \text{金融費用} + \text{賃借料} + \text{租税公課} + \text{減価償却費}$$

◎ 中小企業庁方式は控除法を採っているが、日本銀行方式では加算法を採っているのが特徴である。

また、次の図の様に、加工高、平均従業員数、加工高労働生産性をグラフ化しなさい。



【保存先】

C:\¥Office 操作¥加工高労働生産性.xlsx

【問】

次の加工高労働生産性表を見て、“A社”の20期の加工高労働生産性の状況を考察しなさい。

	全産業(千円)
優良企業	10,258
黒字企業	7,998
A社	

前ページの加工高労働生産性を記入

ヒント

この指標が高いほど、従業員一人当たりの生産性が高いと言える。

【考察】
